

(参考 1)

遺伝子組換えパパイヤ（注）による我が国の生物多様性への影響について（農林水産省及び環境省の共同見解）

- 1 論文等の情報にもとづけば、
  - ① パパイヤは、元々日本国内には存在せず、栽培用に海外から導入された植物であり、交雑可能な在来野生種もない。
  - ② 仮に栽培パパイヤや、道ばた等に生えているパパイヤが遺伝子組換え体であったとしても、パパイヤは日本の自然環境下では他の植物との生存競争に負け、拡大していくことはないと考えられる。
- 2 このことから、生物多様性への影響は低いものと考えられるが、今後、台湾当局からの科学的情報の収集、学識経験者の意見等、さらなる知見の集積に努めたい。

（注）パパイヤリングスポットウイルスに耐性を示す遺伝子組換えパパイヤ。なお、本パパイヤと同様の遺伝子を導入した、米国で開発された遺伝子組換えパパイヤに関しては、我が国への生物多様性影響が生じるおそれはないと判断されています。